

豊橋駅から東栄駅まで51.2km 代表的な駅7駅をご紹介します。

① 豊橋(とよはし)

豊橋市

【開業】明治21年 【R元 一日平均乗車人員】28,783人

新幹線も停まり、「東三河の交通拠点」である豊橋駅が旅客駅として開業したのは明治21年で、豊橋の産業隆盛の柱として大きな役割を担ってきました。戦後、昭和25年には駅舎と民間商業施設がひとつになった日本(国鉄)初の「民衆駅」として生まれ変わりました。現在では路面電車や路線バス、自動車が集中する地上部と分けたペDESTリアンデッキが複合商業施設とも隣接しており、多くの人々で賑わっています。市の中心部には吉田城があります。



② 豊川(とよかわ)

豊川市

【開業】明治30年 【R元 一日平均乗車人員】3,312人

豊川市の玄関口となる豊川駅は近代的な橋上駅です。西へ200m程行くと、日本三大稲荷の一つとして有名な「豊川稲荷」や「門前まち」を、東へ600m程行くと、国の重要文化財に指定されている三重塔で有名な「三明寺」を訪ねることができる最寄りの駅です。



③ 三河一宮(みかわいちのみや)

豊川市

【開業】明治30年 【R元 一日平均乗車人員】1779人

三河一宮駅は名前のとおり、三河国一宮「砥鹿神社」のそばにある駅です。最寄りの駅にふさわしい外観の駅舎を東へ600m程行くと、古木が林立する「砥鹿神社」に辿り着きます。さらに1km程行くと、打ち出の小槌のように見え、巨木のパワーを感じる「大和の大いちょう」を訪ねることができる駅です。



④ 新城(しんしろ)

新城市

【開業】明治31年 【R元 一日平均乗車人員】667人

豊橋駅から大海駅を結ぶ旧豊川鉄道の駅として明治31年に開業された新城駅は、現在も新城市の中心駅として通勤や通学など多くの市民に利用されています。駅周辺の商店街では毎月第4日曜日に日本三大軽トラ市のひとつ「のんほいルロット」が開催され、多くの買い物客で賑わいます。

